

# 福岡市総合計画審議会

## 第6回 都市の成長部会

### 会議録

日時 平成24年11月6日(火) 午後3時30分

場所 福岡市役所15階 講堂

出席者（五十音順、敬称略）

青木 計世

小俣 郁雄

後藤 太一

富永 周行

古川 清文

山倉千賀子

阿部真之助

甲斐 敏洋

末松 大和

鍋山 徹

星野 裕志

池内比呂子

小塩 正己

出口 敦

福田まもる

水城 四郎

# 福岡市総合計画審議会

## 第6回 都市の成長部会

〔平成24年11月6日（火）〕

開 会

### 1 開会

○星野部会長 それでは定刻になりましたので、ただいまから福岡市総合計画審議会、第6回都市の成長部会を開催いたします。

7月から始まったこの部会も、6回にして今日が最終回になります。前回いろいろと最後にお出しいただいたものを、今日は、事務局のほうからまとめてお話いただいて、最終的にまとめるという方向で行きたいと思っておりますので、どうぞご協力をお願いいたします。

この都市の成長部会としてまとめた答申を、調整委員会を経て、次回総会で最終的にまとめることとなります。本日、また新たにご意見をいただく方もいらっしゃるかと思っておりますけれども、この部会が最後ですので、最終的には部会長に一任ということでお願いしたいと思います。

### 2 審議（基本構想、基本計画）

○星野部会長 それでは、事務局から、前回から修正いただいた資料についてご説明をお願いいたします。

○事務局（藤本） それでは、資料のご説明をさせていただきます。

まず、資料の確認をさせていただきます。資料1が今後の審議スケジュールでございます。資料2として総合計画の答申案をお配りしております。A3の資料3は成果指標の一覧表です。それに加えまして第5回の部会の議事録を配付しておりますので、ご確認いただいて、修正がございましたら11月19日までにご連絡いただければと思います。

それでは、資料を説明させていただきます。まず資料1をお願いいたします。

今後の審議スケジュールです。本日が部会の第6回目です。前回の部会でのご意見についての修正をご説明させていただきます。そして、本日の結果を踏まえまして、11月16日に総合調整委員会ということで、両部会の部会長と会長・副会長とで調整をさせていただき、最終案をまとめまして、11月19日の第3回総会で最終的に答申の案を決議いただきます。

それでは、資料2をお願いいたします。本日の資料3は成果指標のところを詳しく書いているものなので、説明は資料2に従ってまいりますので、必要に応じて資料3をご

確認ください。

まず資料のゼロページ、目次のところからお願いいたします。1 ページの手前、左側の目次ですが、5の「計画推進にあたっての基本的な考え方」のところは、前は「基本姿勢」としておりました。こちらは計画推進にあたっての考え方の「アジアのリーダー都市」のところの表現等に合わせまして、少し修正しております。

次の2 ページ、3 ページの構想のところは、特にご意見がございましたので、修正はございません。

6 ページ、7 ページをお願いいたします。

7 ページは、図のほうに矢印の先がなかったのがわかりにくいというようなことなどいろいろご意見がございまして、ご意見をいただいたとおり、矢印の先のほうに基本構想の都市像を入れております。いわゆる基本計画の基本戦略に基づくまちづくりによって、基本構想に掲げている都市像の実現をめざすということで、こちらには基本構想の都市像を掲げております。

その下の人材のところの図の中に人材育成などの表現が入っていないというご指摘がございましたので、8 ページのほうの文言に合わせた形で追加しております。

それから8 ページの①、②に書いてある表現と、7 ページの図の中の表現が合っていないのではないかとご意見がございましたので、合わせる形で8 ページの①の表現を改めております。

また、③の人材のところにつきましては、後のほうで学校についてのご指摘がございまして、大学等についての記述を変えておりますので、それに合わせて変えております。

あと、③のところは、構造として①、②との関係がわかりにくいのではないかとご意見をいただいております。すみません、修正が間に合っていないんですが、この③のすぐ下のほうの「人材の育成と集積」の①、②とパラレルではなくて、図に示しているような位置関係にあることがわかるような表現を追加させていただきたいと思っております。これは本日に合いませんでしたけれども、今後対応させていただければと思っております。

次に10ページです。こちらにつきましては、基本姿勢、戦略をまとめる形でアジアのリーダー都市をめざすというところを入れておりましたが、位置づけがわかりにくいというご意見をいただいておりますので、基本戦略を推進するにあたっての基本姿勢という整理をしております。ここについては、生活の質の部会で、もうちょっとこういうことをやって基本構想の都市像をめざすというのがわかるように追加してくれというご意見がございましたので、一旦改めておりますけれども、さらにもう少し、そのご意見を踏まえて修正する予定です。

それから11ページについては、「基本構想と8つの分野別目標」ということで書いて

おりましたけれども、「基本構想と基本計画の8つの分野目標」という表現に改めております。

12ページ、13ページについては、表題がなくてわかりにくいというご意見があったところございまして、表題をつけております。

14ページ、15ページ、こちらも生活の質の部会でのご意見です。14ページは、10ページの「基本姿勢」という言葉と混同しやすそうだったので、先ほど言ったとおり「基本的な考え方」「基本的な方針」と表現を改めております。15ページについては、生活の質の部会の5回目で、いわゆる局をまたいだコミュニケーションみたいな表現を入れたほうが良いということでしたので、そのあたりを追加しております。

それから、次にずっと進みまして、25ページでございますが、“MONOCLE”の評価は外したほうが良いというご意見をいただきましたので削除しております。

29ページの財政状況については、一般財源、一般会計だけでなく全会計でないとおかしいのではないかというご指摘をいただきましたので、当初予算で全会計の総額というのを文章として追加しているのと、会計別の予算の推移という図を入れておりまして、あと、歳出についてどんなことに使っているかということで、一般会計の歳出の内訳を追加しております。

30ページは、それとあわせまして、市債残高はもともと全会計合わせておりましたので、その区分をそれぞれわかるような形に改めております。

総論は以上で、次、計画各論です。

36ページ、37ページにつきましては、37ページの⑦で、女性に対する暴力だけではなくて子どもの虐待についても記述すべきという意見がこちらの部会でございましたので、追加をしております。

40ページにつきましては、生活の質の部会で、若者のニートや引きこもりの支援の記述をというご意見があったので追加しております。

ごめんなさい、ちょっと戻りまして、39ページです。すみません、飛ばしてしまいました。39ページの1-4は施策の名前が変わっております。「心豊かに文化芸術を楽しむまちづくり」ということで、「心豊かで楽しい文化芸術の振興」という言葉になっていたんですが、ここはちょっと表現がおかしいのではないかとパブリックコメントでご意見をいただいていた分の修正がちょっとおくれまして、今回修正しております。

次に44ページ、「NPO、ボランティア活動の活性化」でございます。「市内に事務所を置くNPO法人数」は、福岡市の所管は市内だけに事務所を置く法人だったんですが、福岡市以外にも事務所を置いている県の所管のNPOについても入れるべきというご意見が生活の質の部会のほうであったために、数字を追加しております。

その下の「ソーシャルビジネス起業者数」と書いているところの表現なんですが、こ

これは福岡市の施策で支援をした数ですので、正確には「市の施策によるソーシャルビジネス起業者数」で、すみません、今日は変えておりませんが、今後改めさせていただきます。

49ページをお願いいたします。「良質な住宅・住環境の形成」のところの「バリアフリー化が行われた割合」ということで、以前は緊急通報装置などがついている高度な高齢者向けの住宅の数字として、3.2%と4%というのがあったんですが、生活の質の部会のほうで、そういうグレードの高いものではなくて、ボリュームゾーンをあらわすような指標でということでしたので、一定のバリアフリーが行われた割合ということ、手すりを2カ所つけている、段差がないとかいうぐらいのものなどとして、数字を33%から80%に変えております。

52ページをお願いいたします。こちらについては、こちらの部会のほうで「ストック」という言葉について大分ご意見がございまして、ここで「都市のストック」という表現について、52ページの「めざす姿」のところで説明しております。「ストック」については、「これまで造られてきた、道路や鉄道、公園、計画的な市街地などの都市を形成する基盤施設や、公共・民間の建築物・建造物とこれらに付随するオープンスペースなどの蓄積、またそれらが形成する街並みのこと」という整理をしております。

次に54ページをお願いいたします。こちらは大分ご意見をいただいたところで、エネルギーの家庭での電力消費量を指標にしていたのですが、こちらについては、当然ガスの分とかもありますので、「家庭部門における1世帯あたりのエネルギー消費量」と改めております。あわせて、家庭だけではないだろうということで、業務部門における消費量についても指標として掲げております。

あと、電気自動車についてのご意見とかも少しいただいたんですが、CO<sub>2</sub>排出量のそれぞれのボリュームを見たときに、今、車自体が減って下がっているんで、大きな問題として、家庭部門と業務部門の二つを掲げております。

55ページの施策の4-5の「都市のストック」については、細かくいろいろ書いていたんですが、前段でストックの定義をしましたので、ここは「都市のストック」と改めております。

4-6のところはいろいろご意見をいただいたところで、「都市の」ということではなく「地区の魅力」ということで、「地区」に改めさせていただいているというのが1点です。それから、「魅力」ではなくて「価値」にしたらどうかということと、指標で空室率なりを上げるべきではないかというご意見をいただいている、内部でいろいろ検討はしたんですが、空室率等は、当然行政側でやれるところもあるんですが、供給側でなかなかコントロールできないところもあるので、指標として挙げにくいところがありまして、それに合わせて、「価値」より「魅力」という言葉に改めたほうが良いという

ことで、ここは「地区の魅力」と改めております。あと、内部を少し見直しまして、多彩な利活用みたいところが公共空間だけになっておりましたので、民有空間の利活用についても表現を入れております。

56ページをお願いいたします。56ページの「めざす姿」の集客のところ、プロモーションだけ都市圏や九州が一緒にやっているような表現になっておりましたので、「都市圏や九州各都市と連携し」の後に「魅力向上に向けた取組みや」ということで、そちらの部分についても追加しております。

57ページではホテルの客室数についてご議論がございました。ホテルについての現状認識、課題認識のところを記載ということで、実際に増加傾向が続いているけれども外国語対応ですとか外国語案内表示などの課題もあります、今後のMICEの誘致のためには多様なホテルの立地が求められていますという現状認識を掲げております。

58ページをお願いします。58ページの施策5-1についても、観光資源のところの都市圏や九州各都市との連携ということで、文章を追加しております。

5-2のところ、「大濠公園・舞鶴公園」の後の「(セントラルパーク)」は落とすのではなかったのかというご指摘をいただきました。ここについては括弧の中を落とさせていただきます。すみません、本日はちょっと対応ができておりますが、落とさせていただきます。

これの指標について、生活の質のほうの部会で、鴻臚館の認知度などの数字があるはずだということで、調べたところ調査しているものがございましたので、舞鶴公園に行ったことがある市民の割合について、新たに現状と目標値を設定しております。

58ページの施策5-3の下の指標ですが、「観光情報サイトのアクセス数」です。これは部会でなく、パブリックコメントに基づく全体の見直し作業に伴って修正したもので、少しおくれて出させていただいています。観光ボランティアさんが案内している人数ということだけではなくて、施策に書いています情報アクセスということで、観光情報サイト「よかなび」のページビューの数を、現状と目標として挙げております。

59ページの5-4のところは、コンベンション機能がウォーターフロントだけのよう表現になっているということでございましたので、ちょっと順番を入れかえた上、言葉を追加しまして、「コンベンション機能を持つ福岡都市圏の大学、施設、ホテルなどと連携し、MICEの誘致を推進します」としております。

次は目標6、62ページです。62ページの施策の6-2、「成長分野の企業や本社機能の立地の促進」ということで、アイランドシティや特区ということだけではなく、都心について入れるようにということでございましたので、都心についての記述を追加しております。

63ページ、6-5の就労支援のところ「女性」が入っていないというご指摘がござ

いましたので、「女性」を追加しておりますのと、あわせて、「女性の就業率」ということで、M字カーブのへこんでいるところの現状と目標値を掲げております。

次に64ページ、目標7です。こちらの⑤のところですが、大学についてもっとしっかり位置づけを考えるべきというご指摘をこちらの部会のほうでいただいております、大学の役割等について再度整理をさせていただきました。

65ページの施策7は、「スタートアップ都市づくり」の指標の項目を「新設事業所数」に改めました。

施策の7-2は、生活の質のほうの部会から、デザイン等の記述についてと、クリエイティブ産業等がきちんと定義できていないという意見がありましたので、「クリエイティブ関連産業」ということで7-3のところ、説明の中に「デザイン」という表現を入れるなどの整理をしています。

7-4については、「交流・対話」ということで、前半の戦略のところ「対話」を重要なワードとして出しておりましたので、ここに「対話」を追加しています。

66ページ、施策7-5と7-6では、大学や専門学校については独立させるべきだろうという安浦会長のご意見がございましたので、ここを独立させております。それに伴って、大学を外した分で7-5についての記述を、若者と女性ということで直しております。すみません、女性の管理職比率について、いい数字がないとずっと申し上げていたんですが、国がやっている全体調査の中から福岡市の分だけ抜き出しております。ちょっとサンプル数が少なく200社ぐらいなんですけれども、その数字を一応挙げております。

7-6に大学や専門学校ということで個別に挙げまして、それについては「全国の学生数に占める福岡市の割合」を掲げております。

68ページ、目標8については、「福岡と釜山広域市とが、日常生活経済圏」という隣町みたいな表現はよくないのではないかとということで、「日常的な生活経済圏」に改めております。

「現状と課題」の②については、大学の役割を明確にするため、九州大学の学術研究都市の説明として「知の拠点づくり」を入れまして、それに合わせてアイランドシティの説明を追加したところです。

ここで航空路線についての記述を追加するようご指摘をいただいていたんですが、入れようと思っいろいろやっただんですが、なかなかうまく入りませんでした。いろいろなところに入っているの、ここについてはこのまま行かせていただきたいと思っております。

69ページの⑦も、先ほどの「日常的な生活経済圏」に合わせた表現にしております。

70ページの施策8-1は、都市の都心部の機能についていろいろご意見をいただいた



ところをごさいますて、天神、博多駅、ウォーターフロントについて、単に連携しているだけではなくて、機能としての一体化というご指摘があったのが1点と、都心が空港と近いというのをきちんと生かすようにということが1点、それから、いわゆるハードの話だけではなくて、国際ビジネス機能というのをきちんと入れるようにということでした。その3点のご指摘に沿った形で全文を改めました。

71ページ、施策8-5のグローバル人材のところは、留学生の定着についての記述がなかったもので、追加しております。

72ページは、先ほどの「福岡と釜山の日常的な生活経済圏」ということで、言葉を改めております。

分野別については以上です。

都市空間構想につきましては、こちらの部会でご指摘がありました80ページの「交通体系の方向性」の二つ目の丸について、総合交通体系のしっかりした説明をということで、「鉄道やバス」「分かりやすく使いやすい」「徒歩や自転車」という表現を追加しております。

①の「「都市の成長」を支える交通体系」のところ、アクセス強化の中身について表現を追加しております。

区のまちづくりの目標は、東区について、アイランドシティでのアイデンティティになりまちのブランドというご意見がございましたので、こちらについては、「魅力を内外に発信し、まちのブランド力を高めていきます。また、コンテナターミナルの機能の強化により」ということで、つながりもありましてこのような表現にしております。生活の質の部会で、ここでコンテナターミナルまで追加しなくてもいいのではないのというご意見もあったんですが、成長の部会のほうでは、しっかり市全体の機能について書くようにというご指摘があったことを申し上げました。

こちらからの説明は以上です。よろしく申し上げます。

○星野部会長 ありがとうございます。

それでは、福岡市の総合計画の答申案に沿って審議をしていきたいと思っております。前回皆さんからご意見を出していただいたことに関してはほぼ修正を終えていただいているように今お聞きしましたが、これが最終回でもありますので、新たにお気づきになられた点も含めてこれからご意見をいただきたいと思っております。

進め方は以前と同様、これを四つに分けて考えていきたいと思っております。最初のパートは、ゼロページの福岡市の総合計画の体系のところから基本構想、基本計画までで、答申案で言いますと34ページまでを最初のパートとし、2つ目のパートのところ、生活の質部会が担当している目標1から4までの、36ページから始まって55ページまでです

ね。3つ目のパートが私たち都市の成長部会の担当しております目標5、56ページから始まりまして72ページまで、最後は、空間構成目標と区ごとの目標というのを一まとめにさせていただいて、これをパート4としたいと思います。

まずは最初のゼロページから34ページまでの中で、ご意見いかがでしょうか。特に今回、7ページ、8ページ、10ページのリーダー都市のあたりで前回ご意見をいただいたかと思しますので、これについても何かお気づきのところがあればご指摘をいただきたいと思います。いかがでしょうか。委員、お願いいたします。

○委員 8ページの②の「都市の成長」のところで、「地場産業のイノベーションや」という、ここが私はずっとひっかかっていたんです。わかるんですけども、一般的にもう少し日本語でわかりやすく言ったほうがいいんだろうか、あえてイノベーションという言葉を使ったほうがいいのかと思いつつ見ているんですけども、もう少しわかりやすい言葉で言うとしたらどうなんだろうかというところですね。イノベーションを訳すほうがかえって難しいんですかね。

○事務局（藤本） 経営革新とか技術革新とか、そういったところかと思いますが、ニュアンス的には違うかなというところもありまして、イノベーションについては……。

○委員 イノベーションのほうがいいんですかね。

○事務局（藤本） 委員からもご意見をいただいていたところです。

○委員 似たような議論をFDCでもしていたんですけども、技術革新というのは意図的な意識で、技術という言葉がついたことで考え方がすごく狭くなっていると思うので、意味が全く違うと私たちは思っています。言うなら革新なんですけど、革新だと日本だと「保守と革新」みたいな話になるので、そこは素直に片仮名でイノベーションでよろしいのではないかというふうに一旦考えております。

○委員 そうですか。私も、日本語で直すと言葉がないんだよな、でもイノベーションという言葉聞いてわからない人もいるんだろうなと思ってたんです。

○星野部会長 イノベーションは技術革新なんだろうけれども、特にこの都市の成長の部会の目標7に「創造的活動が活発で」という言葉があるので、このイノベーションという言葉も、地場産業の活発な創造的な活動や市場拡大を促すという表現に変えたほう

がわかりやすいように思うんですけれども、いかがでしょう。大きく意味が変わるわけでもないし、「創造的活動や市場拡大を促す」ということでいかがですか。

委員、お願いいたします。

○委員 要するに、最近役所や議会で、横文字が多過ぎて理解できないという意見がよく出ていると思います。これは千差万別、若い方から高齢者まで目を通す文章ですから、なるべく日本語でわかりやすく、意味が伝わるようにしてあげたほうがいいのではないかと思います。

以上です。

○委員 おっしゃるように、片仮名語だと多くの方が「何だ、これは」と思うのは事実だと思うんですが、同時に、パブリックコメントでも意見が出ていると思うんですけれども、新しい概念を入れているときに無理に日本語化するとかえって伝わらない、片仮名でいいのではないかというご意見も市民の中にあつたように私は記憶しておりますので、ここはその手の言葉を常に考えていらっしゃる委員の見解を伺えたらなと私は思います。

○委員 そんな常には考えていませんけれども。(笑)ただ、片仮名の言葉は結局、欧米流の思考プロセスと大和民族の思考プロセス、そのぎりぎりのところで、できる限り表記するというので、例えば、訳せるものは括弧書きにするなどということもあろうかと思います。イノベーションというと、今まで一生懸命やってきた地場産業の新事業展開というような言葉もあるのかなとは思いますが。それを言い出すと切りがないんですけれども、できる限り皆さんのコメントの中で納得感のあるものは日本語に変えていく、あるいは括弧書きや脚注する。例えば、M I C Eなんて典型ですよ。こういう形でちゃんと脚注で説明を加えるとか、丁寧な表現がよろしいかなと思います。

イノベーションというのは、「異を述べる」というのが一番いいんですけれどもね。異なるを述べる、だから、異なる意見同士を融合するというのが一番いいんですけれども、そういう話を私がするとまたややこしくなりますので。(笑)

○星野部会長 では、ややこしくなる前に引き取らせていただくと、ここである都市の成長の②には、磨かれた魅力にさまざまな人が集まって、経済活動が活発で働く場が生まれる、創造的な活動が活発で多様な人材が新しい価値を創造し、それによって都市の基盤ができて国際競争力を有するという、4つの目標に描かれている内容がここの中に書かれているのであるとすれば、あえてこの中で触れられていないイノベーションという片仮名は避けて、先ほど申し上げたような目標7の創造的活動とか創造性という言葉に

置きかえて構わないと思うんですけども、いいですか。

○事務局（光山） すみません、60ページの目標6の「めざす姿」の最初の丸のところにイノベーションという言葉を使わせていただいています。

○星野部会長 「イノベーションが活発に行われて」ということは、この全体の「活発」の中にイノベーションというのが一つの考え方として含まれているんですよね。

○事務局（光山） そうですね。それともう一つ、その下の「現状と課題」の②の最後の3行のところに、「地場産業のイノベーションを促進するとともに、雇用基盤を」云々とあります。ここぐらいですかね。

○事務局（藤本） 先ほど委員も、あえて訳すなら革新とおっしゃられたんですけども、確かに革新だけだと誤解されやすいところもあるので、目標7の創造のほうではなくて、目標6の方で、技術や経営の革新や新規事業への展開などという意味合いを置いています。よくイノベーションとクリエイティブと並べて言われたりもするので、創造性とは別の革新という位置づけでいくと、経営革新や技術革新、新規事業展開などの言い方でくくらせていただくか、今のイノベーションをそのまま使わせていただいて、少し長い説明をつけさせていただくかということですが、いかがでしょうか。

○委員 基本的には、今の地場産業がある市場、事業規模を大きくする、今の事業に特化して大きくするということとあわせて、何か新しいことをやっていこうということだろうと思うんですよね。わかりやすいとすれば、ここだけで見た場合は、今課長が言われた「新規事業の展開や市場拡大を促進する」……、「地場産業の新しい事業の展開や、既存市場の拡大を促進するとともに」……。まあ、イノベーションでもわからないことはないんですけどもね。

○委員 「新たな事業展開」とか、「展開」をよく使うんですね。それが売り上げにつながる。その根本はイノベーションなんですけれども、そういう意味では「創造的活動」や「事業展開」など、言葉を少し増やして説明する手もあるかと思います。ここは切りがない気がしますけれども、「展開」という言葉は幾つかあります。「事業展開」「新たな事業展開」とかですね。

○事務局（藤本） 今いろいろご意見が出たので、少し整理させていただきます。特定の

言葉で置きかえるのは難しそうな気がいたしますので、方向としては、MICEと同じような形で説明をつけさせていただくようにして、中身については後ほど部会長とご相談させていただくような形でいかがでしょうか。

○星野部会長 よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○星野部会長 ありがとうございます。

それではほかに、この前半の基本構想・基本計画の部分で、ご意見いかがでしょうか。

7ページの図によって、基本計画についての考え方が非常にわかりやすくなりましたので、こうしていただいてよかったと思います。なりたい都市がこういう都市であって、そのためにどういう要素が必要になってくるか、そしてその基盤を支える人材や教育の重要性ということを、一つのチャートの中うまくまとめていただいたと思います。

もし前半の部分でないようでしたら、体系から基本構想、基本計画をここまでとして次に移りたいと思いますけれども、よろしいですか。委員、どうぞ。

○委員 13ページの目標6の「経済活動が活発でたくさんの働く場が生まれている」の次、「IT、健康、医療、福祉産業などの成長分野の企業のみならず、成長分野の活動が活発であるとともに」、これは要るんですかね。何かしっくりきませんね。

○事務局（藤本） すみません、これは表現がおかしいと思いますので、どの段階からこうなっておりますか確認します。チェック不足で申しわけありません。「成長分野」が後ろに入っていたのに、その前に「成長分野」の説明を後からつけたものですから、「成長分野」が重なってしまっています。「成長分野の企業のみならず」ということであれば、「その他各種の企業活動が」とかになりますね。もともとは「成長分野の企業の活動が活発であるとともに」ということだけを書いていたものですから。

○委員 それでいいのではないかと思うんですけれども。

○事務局（藤本） 「などの成長分野の」でいいのか。「企業のみならず」ではなくて、「医療、福祉産業などの成長分野の企業の活動が」と改めさせていただきます。

○星野部会長 ここは60ページの目標6の「めざす姿」も同じ内容ですので、ここにも変えていただきたいと思います。

○事務局（藤本） はい。

○星野部会長 それでは、35ページの分野別の目標に入りたいと思います。まずは、もう一つの部会が担当されています目標の1から4まででいかがでしょうか。

55ページの施策の4-6、「ストックの活用」のところは、「地区」というところ限定して、随分苦勞して書いていただいたんですけども、表現が「公共空間や民有空間の管理や多彩な利活用、両者が連携した」と、いかにもお役所の言葉なので、もう少しいい表現に変えていただけないですか。ここはたしか委員から、例えば空室率だとか、まさに民間も含めてということでご指摘いただいたことに対する対応だったと思うんですけども、何か表現を工夫していただければと思います。

お願いいたします。

○委員 55ページ目の施策の4-6ですが、改めて今、部会長のご指摘を受けて読み直してみました。最初にある「エリアマネジメント団体などの活動を支援するとともに」のところは、エリアマネジメント団体は、天神地区や博多駅周辺地区にできてもう五、六年活動を続けられています。その活動を支援することも大切ですが、自立的な運営を支援していかないとならないと思います。あれは、会費の徴収、あるいは営利活動を行うなりして、いずれは自立的に運営していけるのがいいわけです。活動を支援するというと、イベントに助成金を出したりすることで終わってしまう気がしますが、究極は自立的な運営を支援するということなので、活動だけではなく、運営の部分も強調していただく必要があると思います。立ち上げのときには、総務企画局がかなり力を入れて立ち上げのお手伝いをされましたが、今は区役所が担当されています。正直申し上げて、トーンダウンしているような印象で、運営面でお困りの点も結構あると思います。エリアマネジメントは、次のステップに移ろうとしていると思いますが、そのときの一番のテーマは自立的な運営だと思います。それについて市がどういうことをできるのかを考えていただくきっかけになる文章にしていいただければというのが一点目です。

また、その文章の後半部ですが、長い文章が一つの文章になっているので、場合によっては途中で切っていただいたほうが良いかもしれません。後ろの「都市の価値や魅力を高め、賑わいや安全・安心の空間を創出する取組みを進めます」というのは順番が逆で、空間を創出して、最終的に都市の価値や魅力を高めるような取り組みになるのではないかと思います。そうすると、「空間創出」が二つ続いてしまうので、星野部会長から今ご指摘があったように、この文章は改めて精査していただく必要があるのかなと思いました。

具体的なイメージとしては、前回、がご指摘があったように、民間の空室率を下げて

いくために地区の価値を上げていくことが非常に重要ですし、集客力を上げるために歩行者天国のようなことを定期的にやっていけるようにする。これについては警察との協議で大変苦勞されています。警察も行政の一部と考えれば、この施策の中にきちんとうたっていただいて、自立的に運営して活動していけるようにしていただく必要があると思います。イメージとしては、民間のストックの価値を上げていくということと同時に、集客力を上げていくために、道路等の空間をもっと有効に活用していけるようにしていただきたいという趣旨で文章を考えていただければと思います。

○事務局（藤本） わかりました。ありがとうございます。

○星野部会長 ここは、空間の活用と創出ということと、価値や魅力の向上ということと、それをサポートしている団体の自立的活動を支援するという3つの要素が入っていて、これが1文の中に入れ込まれていることでわかりづらくなっているので、むしろ3つに分けていただいたほうがわかりやすいかもしれませんね。よろしくをお願いします。

○事務局（藤本） はい。

○星野部会長 委員、お願いします。

○委員 今さらですけれども、4-6の「ストックの活用」の中の公共空間は、今議会のほうでも上がっている容積率緩和における公開空地の意味も含まれるんですかね。

○事務局（藤本） 公開空地は私有空間になります。

○委員 私有空間の意味も含まれる内容ということですね。わかりました。

○星野部会長 委員、お願いします。

○委員 前回私が言ったことについて非常に丁寧にご検討いただいて、適切な言葉遣いになっています。ありがとうございます。

おっしゃるとおり指標を立てにくいのはとてもよくわかって、空室率、賃料云々に對して行政ができることの限界はよくわかりますので、それがいいことはまず賛成なんです。価値という言葉を上から落として、魅力だけというのにずっとひっかかって読んでいたら、実は下のほうには価値という言葉が残っていたということに気づきまし

た。これはきっと落とし忘れたのではなくて、最近ずっと官民一緒に取り組んでいる中で、課題としてはみんな認識していることだと思うんですね。なので、わかりにくいというご批判もあるかもしれませんが、価値とは何かというのは問題提起としては非常に重要なメッセージだと思うので、上の施策の文章にも「地区の価値や魅力」というふうに価値ということを復活させていただきたいなご提案申し上げます。

○星野部会長 藤本課長、よろしいですか。では、先ほどの3つの要素をこの4-6に入れていただくということで、よろしくをお願いします。

○委員 その一つ前の54ページ目の施策の4-2の確認です。もっと前に発言すればよかったのですが、改めてこの文章を読んでもみると、「生活交通の確保」とあります。「使いやすい公共交通ネットワークの実現や生活交通の確保」の「生活交通の確保」がどのような意味を指すのかというのをお願いします。

また、「自転車利用の促進など」とありますが、これも、具体的にどういうイメージなのでしょう。要するに「自転車利用の促進」ということは、自転車専用路を増やしていきます、あるいは駐輪場を再整備していきますということでしょうか。全国ワーストワンになったということが平成13年、16年ぐらいですか、続きましたので、政策的に都心部の歩道上に駐輪場をたくさん整備してこられました。それらを再整備していかないといけないと思います。そういう意味を含めて、「自転車利用の促進」ということをここでおっしゃっているのでしょうか。そうした点の確認です。文章を増やすのは大変かもしれませんが、できればイメージをこの場で確認させてください。あるいは文章を補強していただければいいのかもしれませんが。

それから、コンパクトな都市をめざすという意味は、単に交通を整備するだけではだめで、交通と施設の配置、要するに交通政策と土地利用政策や施設配置を一体で考えないといけないと思います。ここにあるように公共交通だけを整備すれば、例えば高齢化が進んだ際にも出かけたくなる街になるかということ、必ずしもそうでもないと思います。改めて、交通政策と利便施設の再整備、再配置といったものを一体として考えていただく必要があると思います。そうした点を改めてここでうたわなくてもよろしいでしょうか。

○事務局（藤本） 今、記述が飛び飛びなっているので、考え方をご説明します。これは、分野別の目標と空間構成目標、それと区のものがあるんですが、全市のものでは空間と分野別の二つになっています。委員がおっしゃったコンパクトなまちづくりにおける施設の配置や土地利用は、空間構成目標のほうで、拠点等を置くという配置の考え方をあ



る程度お示ししております。まちづくりの分野別ということでは、4-2と4-5をあわせた形にあって、4-2に全体でのコンパクトな都市づくりと、それについての交通の部分だけが抜き出されています。今4-2のところで「コンパクトで持続な都市をめざし」と書いているんですが、これだけでは当然コンパクトにならなくて、コンパクトな都市の一環である交通体系については、この4-2に記述させていただいているところです。

「生活交通の確保」については、いわゆる交通不便地の生活交通を確保するという大きな方向性をお示ししています。

自転車利用につきましては、個別具体的にどんな方向でいくというところまではここでは詰めておりませんが、ご指摘のような自転車走行空間をしっかりと確保することを中心に、自転車利用を促進していこうと考えているところです。

○委員 わかりました。近い関係にある施策の4-2と4-5の位置が離れてしまっているので、施策を並べる順番を考え直していただく必要があるのではないかという気がしました。この点は、ご一任いたしますので、よろしくお願いします。

○星野部会長 ありがとうございます。この4-2と4-5の関係ですね。確かに、「コンパクトな都市づくり」という4-5があって、それを実現するために交通の体系化という4-2があるのだとすると、この順番はもう少し考えていただく必要があるかと思えます。

あと、先ほど4-2で言われた「生活交通の確保」については、「生活不便地」という言い方があるんですか。

○事務局（藤本） 「交通不便地」です。

○星野部会長 「交通不便地」という言い方があるのだとすれば、今、まさに発言されたように、「交通不便地の解消のための生活交通の確保」と具体的に書いていただいたほうがいいのかと思えます。

もう一つ、4-2で交通体系の整備について書いてあって、自転車利用の促進というのがあるのならば、例えばこの指標の「公共交通の便利さへの評価」の中にあってもいいですね。七隈線の全通にもかかわらず「現状維持」と書かれていますが、これはもうほぼ達成されているので、むしろこちらよりも、例えば自転車専用路の全長が現状ほどのぐらいで将来的にどのぐらいにするのかとか、あるいは市内の駐輪場の数を現状と目標に入れていくというように、もう少し具体的に、こういうことをして伸ばして、そ

れで結果が出るという数値に変えていただいたほうがわかりやすいように思うんですけども、いかがでしょうか。

○事務局（藤本） 少し、先ほどの交通の話で補足の説明をいたします。

○事務局（住宅都市局） 住宅都市局の都市計画部交通計画課です。

最初に先生がおっしゃった「生活交通の確保」、それと「自転車利用の促進」です。これは、それぞれの施策をどうするというよりも、最終的に、過度に自動車に依存しない交通のシステムを実現するという事で、いろいろな交通手段を使って、総力戦でこういった目標に臨んでいこうということです。それぞれの施策についてはバランスもあるかと思いますが、例えば、都市交通総合計画とか、部門別のマスタープラン等で具体的な施策を練っていききたいと思います。ここで書いている意味は、過度に自動車に依存しない交通システムの実現に向けて、いろいろな交通手段を組み合わせで総力戦で臨もうということです。

それと、「公共交通の便利さへの評価」です。一概に便利さといっても、人によつてとり方が違うので、難しいところがございます。約8割弱ということなので、結構高いレベルではないかなと思っております。先ほどちょっと話に出ておりました「生活交通の確保」については、いわゆる公共交通の空白地——バス停から一定以上離れたところで公共交通が使えないとか、こういったところの住民の足の確保という意味です。あと、不便地というところもあります。こういうところは、どんな方でも自動車以外に、誰でもが利用できる公共交通をしっかりと確保していこうということです。

どちらにしろ、最終的には自動車に依存しない交通システムの実現に向けて取り組んでまいりたいと思います。

○委員 今のお話を聞きしてよくわかりました。例えば、これからは女性が社会に進出していく上で、小さいお子さんを持っている女性の方が、今ですと車でちょっと離れた保育園まで子供を送り、また車で自宅に戻り、それから駅まで歩いて通勤する、そういう点を解消していくという意味もあると思います。そうすると、保育園などの施設を再配置していただく必要もあると思います。そうした施策と交通施策はセットだと思いますが、その点は施策の4-5に記載することになるのでしょうか。その辺をきちんと記述したほうがよいと思います。コンパクトというのは多分にそうした意味だと思います。

単に、今の交通ネットワークの利便性を上げておだめで、施設の再配置などを生活者の観点から考えていただく必要があります。高齢者が買い物をしやすくするという事には、そういう施策も含まれていると思います。

それから、今の話をお聞きすると、どうも指標の項目が……。2番目にあるのが「公共交通の便利さへの評価」ということですが、初めてこういう指標を入れられたということをお聞きしておりました。それでしたら、むしろ自動車の分担率を指標に挙げるとか、自動車の分担率を減らしていくことを目標とした方が今言われた説明には合っている気がします。指標はもっと工夫できそうな気もしますが、どうでしょうか。

○事務局（住宅都市局） 今、先生がおっしゃったように、例えば自動車分担率とかいうのが一番はっきりしていると思うんですが、これはなかなかデータがとれないというのがあります。私どもはパーソントリップ調査という交通の調査を大体10年に1回ほどやっています。これは必ず10年に1回というよりも、何か大きな交通施設、例えば七隈線が整備された後とか、そういう変化点を待つようなところがございますので、次回評価するときにそういうデータがとれるのかどうかということもございまして、こういう評価項目を設定させていただいたところです。

○星野部会長 今、幾つかのポイントをいただきました。まず、施策の4-5の「コンパクトな都市づくり」で、先ほど委員から施設の再配置という話をいただきました。大きな、「コンパクトな都市づくり」という4-5をまず持ってきて、その次に、その中の交通体系の見直しという順番で入れていただきたい。もともとの4-5の「コンパクトな都市づくり」の中に、今ご指摘になられたような、まちと自然の調和としてのコンパクトさを入れているわけですが、施設の再配置も含めて、もう少し「コンパクト」の中身を具体的に書いていただいたほうがいいのかなと思うんです。

まずこれについて、藤本課長、いかがでしょう。

○事務局（藤本） コンパクトシティの施設の再配置については、内部でもいろいろ議論をしたこともあるんですが、なかなか施設を再配置するというのが難しいところです。今、そういった考え方が入っているのが、空間構成目標のほうの76ページです。それぞれ、どういった拠点にどういう機能を集約していくかということをご整理しています。「地域の拠点」というところに、市民生活に必要な都市機能が適正に集約されています」、「日常生活圏」の中に「市民の日常生活に必要な基本的な生活利便性が確保されています」とあって、再配置というと、どうやって動かすかという問題になるんですが、考え方としては、拠点に集約して行って、拠点の間をネットワークでつないでコンパクトにしていこうということです。いわゆる分野別の施策という一言では書けないところも多いので、詳細の考え方については空間構成目標のほうで書かせていただいているところです。

○委員 また、ご検討いただければと思います。意見として申し上げます。

○星野部会長 わかりました。これは、ご意見としていただいて、こちらで事務局と検討させていただきます。

それと、先ほどの4-2の指標ですね。担当課長さんからもお話しいただきましたけれども、公共交通の便利さへの評価です。現状維持が目標になっているものがほかの指標にもあるわけですが、もちろんこれは下がることであってはならないわけです。上がるとしても、現状維持を目標としているので、何かもう少し、施策で取り組んだ結果が数字にあらわれるようなものに変えていただくことはできないですかね。何かほかのいい指標はありませんか。今まで事務局で検討された結果ですか。いかがでしょう。

○事務局（藤本） いろいろ検討してもなかなかなくて、その結果がこうなっています。全体的に現状維持が目標となっているものというのは、基本的に、ほっといたら下がってってしまう、そうならないので現状を維持しますということではあります。基本的に、現状維持と書いているのは、別にほっといていいということではなくて、努力することによって下がっていかないように維持しますという意味で設定しています。

こちらについては、自動車にどのくらい依存するかというところで考えると、公共交通が便利という状態を維持しないといけないというのは、実際の使いやすさの点とかもあるんで、大事なところかなと思っております。ただ、これでは不適切ということであれば、例えば一旦これは外すとしても、ほかにかえるものがあるかどうか当たってみないとわからないところもございます。ある意味、ないときには落とすのか、なければこのままにしておくのかというところかなとは思っています。

○星野部会長 これもあわせて引き取らせていただいて、事務局と打ち合わせをさせていただきます。

その他、1から4までのところでいかがでしょうか。委員、お願いします。

○委員 54ページの施策4-1です。家庭部門に加えて、業務部門を含めてエネルギー消費量を入れていただき、ありがとうございました。目標値の設定の仕方なんですけれども、今、ギガジュールということで、家庭の皆さんから見るとなじみのない単位になっています。これは単なるアイデアですが、例えば、2006年から2010年度の平均値を100として、目標値としては何%削減とか、わかりやすくしたほうがいいのではないかと思います。

以上です。

○星野部会長 ありがとうございます。これは、委員にご指摘いただいて、出していたんですけども、これを見てもほんとうになじみがない数値でわかりづらかったので、今の指標で出していただくのがいいですね。

○事務局（藤本） こちらも、これは非常にわかりにくいなと思って、何キロワットアワーにしたらいのかとか、いろいろな話をしていました。おっしゃるとおり、割合とかにするとどのぐらい下げるといのがわかるので、その方向で検討させていただきます。

○星野部会長 1から4の「生活の質の向上」はよろしいでしょうか。

〔「なし」の声あり〕

○星野部会長 それでは、こちらの都市の成長部会の担当する目標の5から8、56ページから72ページに行きたいと思います。これは目標の5から一つ一つ行きたいと思います。目標5、いかがでしょうか。

○委員 まず、58ページで、今と同じ意見なんですけれども、5-3の観光情報サイトのアクセス数が608万PVというのは、どういう単位なんですか。

○事務局（藤本） 指標項目のほうに小さく書いておりますが、ページビューということで、そのページを1回開いた数です。同じサイトに来ても、次のページを見たらまたカウントされます。ページを開いた数です。

○委員 アクセスをしたら、それが1ということなんですね。

○星野部会長 5-5のところのプロスポーツの観客数は、ソフトバンクホークスを除いたというのは何か理由があるのでしょうか。

○事務局（藤本） 現状は、ホークスの数だけがものすごく多くて、それ以外がちょっとしかありません。ホークスの観客数を指標に入れてしまうと、達成の可否がホークスの観客数次第になってしまっていて施策の効果が見えなくなってしまうので、ほぼ完全に自立して動いているホークスさんの分は外して指標としているところです。

○星野部会長 なるほど。これは、2012年から10年間で10万人上がったところで、ソフト

バンクの大きな数字が入ってくるとあまり意味をなさないということで外されたんですね。わかりました。

お願いします。

○委員 それに関連して。今さら言っても仕方がないんですけども、ソフトバンクホークスを除けば、スポーツよりもコンサートなどの数のほうが多いですよ。それは入っていないんですよ。圧倒的に多いし、泊まる人が多いからお金も落ちますよね。それが一切なしというのはどうでしょうか。京セラドームや東京ドーム、武道館もそうですけれども、福岡のマリンメッセなども、そういうところに少し触れておいたほうがいいと思います。

○事務局（藤本） 文化については、最初は「創造的」という目標7のところに入れていて、やはり暮らしのほうにないといけないだろうということで、今目標1のほうにも出てきております。

それと、そういった文化の関係を別に起こすといろいろなところに出てきてしまうので、今回はそういう要素も含めて、施策としては7と1のほうに出して、集客の中身のところには今出てきていない状態になっています。

○委員 それと、続いて5-6の施策の方向性のところに「効果的なプロモーションにより、海外からのクルーズ客など多くの人をひきつけます」とありますが、クルーズ客というのは海外からのお客さんのごく一部です。例えば、「海外からの誘客に積極的に取り組み、多くの人をひきつけます」のほうがいいような気がします。クルーズ客というのは、ごくごく一部で、お金もそんなに落ちない。クルーズしかやらないみたいに読めますよね。「誘客に積極的に取り組み、多くの人をひきつけます」あたりがいいかなということです。

引き続き5-4の施策の方向性に「コンベンション機能を持つ福岡都市圏の大学」とあります。確かに学会とかいろいろなものはそうですし、「施設」はマリンメッセなどの国際会議場のこと、そして「ホテルなどと連携し」とありますが、コンベンションビューローというのは機能しないということで、無視しておいていいんですか。あまり機能していないんでしょうけれども。コンベンションビューローというのが、どこも一番のコアになるんですよ。京都や横浜、鹿児島もそうです。これが中心にならないといけない。

○事務局（藤本） これはほかのところもそうなんですが、スポーツにしろ、振興財団と

か、文化でも財団とかがあります。そういう中心的な役割を担う団体等については、施策の表現の中には出てきません。ほかの施策もみんな、誰がという主体については施策の中に入れていません。当然、ビューローなり、福岡市は重要な役割を担っています。

○委員 今はあまり重要ではないでしょうけど、これからならないといけないと思うんです、すごい人を置いてですね。今の形ではおかしいと10年ぐらい言われているのにそのままでしょう。また10年そのままだったらおかしいのではないかなと思うんです。

それと、国内コンベンションの誘致件数は精査中ですからいいんですけれども、160件になっている。コンベンションというのは、例えば1,000人以上とか500人以上に限らなくて、いろいろなコンベンションがあるわけですから、10年計画の中で138が160になるというのがどうなのか。今、ライオンズクラブとかラグビー、泌尿器科学会とか、そういうのがコンベンションと思っているかもしれないけれども、いっぱいあるんですよ。そのいっぱいあるもののほうが分母として大きいわけですから、そこらあたりの数字は重要だと思うんです。

○事務局（藤本） この「現状値」はコンベンションビューローと福岡市が誘致した件数です。福岡市なりコンベンションビューローが誘致したもの以外のものは数が把握できなくて、全然わからないところです。ここはもともと国際コンベンションの件数だけ書いていて、委員から何度も国内の分があるだろうということと言われましたが、要は、誘致にかかわっていない分がものすごくたくさんされているものですから、全然ボリュームが把握できないので、市とコンベンションビューローで誘致しているものをお示ししています。基本的には、明確には決めていませんが、100名以上のコンベンションみたいな形で誘致したものをここに掲げています。全体のボリュームは表せてはいないかとは思いますが今はこうでそれを伸ばしていくという指標としてはこれが適切かと考えているところです。

○委員 この中に入っていないんですけれども、今、マラソンが二つありますよね。公式のマラソンと、女性陣の多いシティマラソンがある。JALホノルルや東京マラソンみたいな、そういうものを誘致の目標という形で福岡に持ってくるという項目はどこかに入らないんですかね。

○事務局（藤本） フルマラソンにしようということで、議員の皆様も議員連をつくっていただいて、いろいろな形で活動は盛り上がっております。施策の方向性としては、どんどん誘致していこうという方向ではあります。

○委員 言葉としてはどこかに入っているんですか。

○事務局（藤本） 59ページの5-5で「国際スポーツ大会や全国レベルの大会の開催地、合宿地としての誘致・支援を行うとともに」ということで、マラソンとかいろいろなものを含めて頑張っていくということを書いています。

○委員 市民がするというのは、市民参加型のウォーキングやトレッキング、ノルディックウォーク、それからアジアに誇る福岡マラソンでもいいんですけども、プロばかりになる。「触れる」「見る」だけではなくて、市民が、海の中道であれ舞鶴公園、あるいはアイランドの3キロの新しいところを10周するものを新たにつくるなり、そういうのが要りますよね。

○事務局（藤本） 場所が離れてしまっているんですけども、39ページの施策1が「スポーツ・レクリエーションの振興」ということです。暮らしの質を高めるほうのスポーツ・レクリエーション機能、市民スポーツというのは1-5に入れています。59ページが、国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツということ。当然、それをやることで市民スポーツの振興にもつなげますという表現がここに入っているところです。少し分かれていてわかりにくいところですが、文化とかもそうなんです、どうしても成長と暮らしの質という両方にかかわってくるものが多いものですから、分かれて入ってしまう形になっています。

○委員 ホノルルでも、まず10キロウォークがあるんですね。私たちが行くときには10キロウォークだけど、うちの娘なんかは走りますのでね。ああいうものを誘致して福岡で根づけば、市民も増えるし来る人も相当増える。今さら言っても仕方がない話なんだけども、どこかで文言が入ればいいなと思う。

○委員 ニューヨークマラソンが中止で140億円の損失とか言っていましたね。でも、中止になっても泊まっているからいいんでしょうけれどもね。

○事務局（光山） 具体の話はなかなか難しいです。今おっしゃっている趣旨のことは、今やれるように一生懸命検討中です。実現に向けて頑張りたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。



○委員 せっかくやっているんだから入れればいいなと思いますね。青年会議所や商工会議所でも、今やっているじゃないですか。

○星野部会長 先ほど、委員のお話をお聞きして思っただけですけども、この目標5というのは、「磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている」ということで、国内、海外から人が集まってくることをめざしているわけですが、この中に、イベントというのが抜けていると思うんですね。MICEという考え方をに入れていただいて、スポーツのイベントがあるわけですけども、コンサートとかさまざまなイベントについても、目標の前半の市民が文化に親しむのとは別に入れていただいたほうがいいのではないかと思います。前回も、コンサートのために市内のホテルがとれないというほどの話が出ていました。今、スポーツのイベントのためにホテルがとれないということはまずないと思うんですけども、コンサートの場合にはそれが起きるということは、日本全国から人が集まってくるということです。目標5の⑥のスポーツのところを「スポーツあるいはイベント」としていただく、あるいは5-5を国際スポーツ大会とイベントとしていただいてもいいし、イベントはイベントで別に立てていただいてもいいと思います。

人がさまざま集まる機会としていろいろ書いていただいた中には、MICEでありスポーツであり、文化的なものを含めてのイベントというのは入れていただいたほうがいいように思うんですけども、いかがでしょう。

○事務局（藤本） 考え方としては、目標5の中にそういった要素が入っているというのはそのとおりだと思います。文化については、成長の分野でも目標7のほうにかなり入ってきているので、毎回起こしていくかというのが1点です。あと、MICEというのはエキシビジョンなりイベントということですので、ある意味、MICEという概念の中にそこまで含めるということもあると思います。また、先生がおっしゃったように、スポーツや文化イベントに人に来ていただくというくくりというものもあるかと思います。新規に起こすというのは難しいかなと思うんですが、どこかにそういう要素で入れられないか検討したいと思います。

○池内副部会長 今の部分なんですけれども、5-2の「緑と歴史・文化の賑わい拠点」というところは舞鶴公園のところだけになっていますけれども、文化という部分で、先ほどのイベントであるとか、そこも含めてもう一回、検討していただけたらと思います。

○星野部会長 イベントをMICEに含めるのが適切なかどうか。MICEというのは

「ビジネスイベントなどの総称」とありますので、そこともそぐわないように思いますし、スポーツとイベントとして入れていただいてもいいのかもしれませんが。いずれにせよ、今池内副部長からもお話しいただいたように、5-2は以前から非常に地域的に集中しているのです、もう少し広く人が集まる考え方として修正を加えていただけたらと思います。お願いします。

委員、お願いします。

○委員 MICEのプロがいる前で私が言うのもつらいんですけども。大きな話は今していただいた議論でいいと思っているんですが、打ち手として書いてある記述にちょっと修正をしていただけないかと思っています。

まず、57ページの一番上の⑤です。この現状と課題の認識を読むと、ホテルをつくれればMICEはやってくると読めてしましますが、ほかのどこかにもあったように、産官学民、地域一体となってMICEの誘致並びに運営に取り組む必要があるというのが、まず大きな課題認識なのではないのかなと思っています。その先に、体制、ソフトの充実に加えてハードの充実もある、その中にきっとホテルの話も入っているという順番ではないかと思います。間が全部抜けて、突然、「多様なホテルの立地が求められる」まで飛ぶのは飛躍が大きいのかなと一つはと思っています。

それと、ここに入れるか、あるいは次の施策5-4の今議論があった記載のところにいれるかなんですけども、2行目の「ウォーターフロントに集積するコンベンション機能を強化するため、新たな展示場」云々のところですが、今、FDCでも議論中なんです、会議や展示、宴会、宿泊など、いろいろな機能が一体的につながって動いているか。そういうことのほうが、単体の展示施設をつくるか、間の交通インフラをつくるということよりも、実は、既存のストックを生かす意味でも重要なのではないか、その目線でホテルをつくるというのが大事なのではないかと思っています。キャパが足りないからつくるのではなくて、一体的に機能するために宿泊機能を展示機能に付加するんですね。なので、施策の方向性としては、「MICEを支える多様な機能が一体として機能するように」というのが多分非常に重要なポイントで、その先に、展示場の整備や回遊性の向上という個別の施策が出てくるという記載にしていいただけないかなと考えます。ご提案です。

○星野部長 ありがとうございます。今、産官学が連携しながらMICEを呼び込む仕組みづくりについてご指摘いただきました。5-4で同じように考えたのは、「コンベンション機能を持つ福岡都市圏の大学、施設、ホテル」という言い方に非常に違和感があります。大学の中に学会をする場所があるからという意味なのかもしれませんが

も、これは、そういう施設の問題ではなくて、むしろ、そういったところが連携をしながら、その後の「コンベンション機能を強化する」ということなので、この表現も今の後藤委員のご指摘にあわせて変えていただきたらと思います。

○事務局（藤本） 今の大学、施設、ホテルにコンベンション機能もあわせて変えてしまっているところは、先日のご指摘で、ウォーターフロントだけがコンベンション機能ではなくて、実際に大学や施設、ホテルとか、そういう既存のところにもありますというのを短絡的に「コンベンション機能を持つ」と前に置いてしまったので、そこは少し表現を考えたいと思います。

あと、委員のおっしゃった、「MICEを支える多様な機能が一体的に機能している」というところは大事だと思いますので、入れる方向で検討してたいと思います。

その前の現状と課題のところでの産学官での誘致が必要というところのホテルのところは、必ずしもこれをすればMICEを誘致できますということではなくて、考え方としては、ホテルについては民間が建てていくので、来街者の増大に伴ってホテルや旅館の施設や客室もそれに合わせた形で増えていますというのが現状認識です。ただ、課題は何かということ考えたときに、外国人の方への対応といったところについては少し課題があって、多様なホテルの立地というのが今求められているのではないかということ現状認識としてまとめたところです。そこの表現について、これをすればよいと読めるようなところは、書き方は考えたいと思います。

産学官での誘致体制みたいなのは、現状と課題というよりは施策のほうを、委員のおっしゃった「多様な機能が一体的」というところとセットで変えたほうがいいのかなどは思います。

○委員 誘致は「人」なんですよね。例えば、ライオンズクラブの不老さんとか、母性衛生学会だったら瓦林先生みたいな、そういう人なんですよ。今、委員が言ったように、MICEの誘致というのは「福岡で俺が受ける」という人の存在が先で、そこがまだできていないのではないか。教授とか病院の先生が「俺がする」とか何とか言ったときに、バックアップする人もできていない、そこが官民一体になっていないということです。MICEはそこが一番重要なんですよ。「俺のところに来てくれ」という人、これが全てなんです。たまたま今八十何%だからすぐ施設をつくらないといけないというけれども、どっちが先かといったら、まず「俺のところに来てくれ。俺のところはホスピタリティー都市だぞ。二次交通もしっかりしている。飯もうまくて食事のレベルはもっと上がっている。ボランティアもいる。サポートのお金も少し出るぞ」という人がいるかどうかなんです。私がコンベンションという話をしたのは、機能していないじゃないか、

アンバサダーみたいなのがいないじゃないかということなんです。

○事務局（藤本） ④なり⑤の前のところに、そういう誘致体制なり、人が不足しているという現状認識がございます。

○星野部会長 目標5はこれでよろしいでしょうか。随分いただいたご意見に沿って短時間でまとめていただく必要があります。

次は目標6ですね。「経済活動が活発でたくさんの働く場が生まれている」、こちらについてはいかがでしょう。

○委員 6-5なんですけれども、指標項目が25歳から44歳までになっていますよね。45歳以上の方とか、要するに子離れした人たちがもう一回働くとかいうことでいうと、これは何か理由があるんですけど。私が忘れちゃったんですかね。ちょっと説明をお願いします。

○事務局（藤本） 女性のM字カーブとよく言われていまして、一旦は就職しますが、結婚や出産を機に一旦やめられて、それでまた後で上がります。そのへこんだ部分がおおむねここというところで、本来こうなっていればいいのがこう下がっている、このくぼんだところを指標として置いているところです。

○委員 そこが目標値のほうに上がっていけば、大きな山全体が引き上げられるということですかね。

それから、ついでは何ですけれども、少し前の5-5のところもそうなんです、スポーツだと5-5と1-5とか関連があるじゃないですか。読まれる方に、脚注でもいいから、これは関連がありますよとか、リンクを張るとかですね。結構つながっているものが多いんですけども、それをやると切りがないんですかね。わかりました。

○星野部会長 委員、6-3の中小企業の競争力をはかるような指標が何かありませんか。これを見ると、2009年に全国の中小企業従事者数に占める福岡市の割合1.45が、2021年に1.50と、数字の上で大きな変化がないですし、その従事者数が変わったところで、それが競争力につながるのかということも考えられます。地場の中小企業が競争力を持つてというものが発揮できるような数字というのが何かありませんか。

○委員 今、それをまとめている最中なんですけれども、中小企業の方々って、この半世紀の間に自分で会社を興して、一生懸命頑張ってきた社長さんが多いんですね。仕事が減っていて、そういう人たちが結構窮地に立っている。それは統計上なかなか見えないんですけども、例えば京都や東京のほうでやっているのは、サポーティングをする人たちがそういう中小企業の方々の相談に乗って、ぎりぎりのところでもう一回事業を続けるみたいなことをやったり、結構そこで新しい事業に踏み出すような方もいらっしゃるんです。

大体2%の中小企業さんが新聞に出るとか補助金をとれるようなところなんですけど、ほんとうに黙っているけど頑張っている98%の中小企業に対する何らかのバックアップですよ。例えば今やっているのは、シニアの大企業出身の人たちが、自分の知見を生かしてボランティアでサポートする、そういうことが部分的に始まっているんですけども、なかなか統計でそれをつかむのは難しいですね。金融でというのも、お金はなかなか中身、質が見えないですしね。

○星野部会長 そうですね。中小企業が地元経済の活性化に貢献しているような数値が何かないですか。

○委員 あとは雇用ですよ。

○星野部会長 雇用ですね。

○委員 雇用者数の99%は中小企業なので。

○星野部会長 事務局のほうで、ほかに何か数値を検討されましたか。

○事務局（藤本） これはかなり検討いたしました。実際、委員のおっしゃったようなサポーターの経営相談とかはずっと市もやっておりますので、窓口での相談件数とか、それから実際の融資の金額は出せるんですが、おっしゃるとおり相談に来られた一部の方だけということになりますので、実際の地域経済を支える地場中小企業さんの全体ボリュームという観点で、従業者数という形で見ることになっています。ただ、実数については、大きく景気の変動ですとか、それから中小企業さんと大企業さんの人の割合とかがあるので、全国の比率の中で福岡市がわりと頑張っているところでの数字を用いて、全国的に中小企業がどうなっているという傾向との差という形で、このような設定にさせていただいているところです。

○委員 相談件数とかとれないですかね。お金を貸すというのは景気変動があるので、フレキシビリティですよ。火災時の消防と同じで、何かあったときに消防隊員が駆けつける回数、そういう件数ってないですかね。

○事務局（藤本） 中小企業さんの経営相談の窓口、それから創業の相談窓口とかも置いていますので、そこに来られた実績とかは全部とっていますけれども、それはある意味、行政のアウトカムというよりアウトプットで、窓口を何人置くかで、その件数が変わってしまうようなところがあります。

○委員 そうなんですよ。シニア人材50人ぐらいの規模の組織で中小企業の社長をサポートしている例があります。そういう形での動くグループ——活動体といいます。そういう組織があればいいと思います。

○星野部会長 委員、何かこういう企業を評価する指標はないですか。それがそのまま効果につながるかどうかは別として、相談件数やサポート件数って非常にいいと思うんですけども、何かほかにこういったものをはかるものはないんですかね。まあ、適当なものがないのであれば、このまま指標として置いておきましょうか。

○委員 目に見える数値が少ないんですよ。例えば、海外に出ている福岡、九州の企業数の推移とか、そういうのはある程度見えるんですけども、それが全体の経済規模の中でどれぐらいの割合を占めるかといえば、非常に少ないんですよ。数値として見ようと思えば、海外展開企業、海外進出企業が、もう少し海外に出るよという数値はとれないことはないし、ある程度のことではできると思うんですね。

○星野部会長 例えば、経済産業局のアジアの調査を見ても、こちらの企業がそれほど海外に進出しているわけでもないし、あまり数値としてはインパクトがないですよ。ただ、特に代案がなければ、このまま置いておいていただくということでもよろしいでしょうか。

○委員 それと6-2なんですけれども、部会長が先ほどの件で言われていましたように現状維持なんですけど、進出企業が30社から50社になって、雇用数が2,500あれば、当然ここは増えておかないといけないと思うんですよ。

○事務局（藤本） これは毎年、その年に進出した企業による新規雇用者数です。

○委員 今、2008年から2011年で年度平均が30社のところが、2022年では50社に進出企業が増えますよということですね。

○事務局（藤本） そうです。

○委員 そしたら当然、それに見合う雇用というのは出てくるんだろうから、この現状維持というのは、年間当たりの増加数が一緒という意味なんですか。

○事務局（藤本） 担当からご説明します。

○事務局（経済観光文化局） 経済観光文化局、創業・立地推進課です。現状維持の2,500人という中に、実は特別要因がございまして、これは1社当たり2,000人を超える企業さんがこの間に来ました。ご存じかと思うんですけども、PSN——パナソニックシステムネットワークスという会社です。特別要因で、この1社でほとんど1年分の数字が出ているので、そのまま伸ばすと現実的には難しい数字であるということで、結果的に現状維持ということなんです。

○委員 であれば、何かとり方を変えて、そこの特別値を外すとかね。外したところで全体的な雇用の数をどう見ていくのかというふうにしたほうがいいのではないかと思いますね。これは異常値ですよ。

○星野部会長 今お答えいただいた数値がそのまま残るとすると、実は現状維持どころか、目標年次にかなり下回る可能性があるわけですね。だとすると、この数字をこのまま置かないほうがいいのかもかもしれませんね。

○委員 それか、別に注意書きするかですね。

○事務局（藤本） 現状の置き方について、再度こちらで検討させていただきたいと思います。

○星野部会長 ほかに目標6でご指摘はいかがでしょうか。

委員、お願いします。

○委員 この6-3の「中国をはじめとする海外への展開支援」は、「中国をはじめとする」という言い方ではなくて、「アジアをはじめとする」という言い方に変えられたほうがよくないですか。今、大企業が撤退とかいろいろ報道されている中で、福岡の中小がこれから中国に販路を拡大していくという可能性については、10年後を考えると、これはちょっと言葉としてそぐわない。むしろ東南アジアに目を向けて、もしくはヨーロッパも含めて、中小企業はいろいろな展開を考えていますので、そういう言い方に変えられないかなと提案申し上げます。

○星野部会長 趣旨を考えたら、基本計画については、そのまま「アジア」に変えていただいたほうがよろしいですね。ありがとうございます。

お願いします。

○委員 6-5は、就労支援の充実が一番重要ではないかと思うんですが、今、若い女性の方は契約社員が多いから、先ほどの話ではないんですけども、この方が、45とか46になって仕事なくなったとき、福岡は瓦解するのではないかと思うんですね。結婚しない人もいらっしゃるし。一応書いているのは書いているんですけども、ここはとても重要なことではないかと思うので、これを何かもう少し強調されたらどうでしょう。だって女性が多いでしょう。6割ぐらい女性で、正社員ではない方が多いじゃないですか。このまま50になって働けないようになったとき、誰が面倒を見るんですかね。そこからあたりをこれから10年間で手を打っておかないといけないのではないかと思います。

○事務局（藤本） 実際の就労支援については女性に限らずやっていますが、当然、女性の社会参画、男女共同参画という中では、就労に向けてのいろいろな活動をやっています。そのあたりを今は一言しか書いておりませんが、充実できるかどうか少し検討させていただきたいと思います。

○星野部会長 それでは、これ以上ご意見がなければ目標7に入らせていただきます。目標7はいかがでしょうか。

委員、お願いします。

○委員 66ページ、施策7-5と7-6です。7-5の施策の方向性で、まずは簡単なことですが、チャレンジの項が「チャンレンジ」になっていますので、修正ください。



その次に、「また、女性が次世代のリーダーとして能力を発揮できるよう」とあって、子どもは次世代のリーダーと言えるんですが、女性が次世代のリーダーと言い切っているものかどうか。多分、趣旨としてはより多くの女性がリーダーとして能力を発揮できるようにという意味だろうと思いますが、男性は次世代のリーダーではないように読めます。それが一つです。

それから、施策7-6は、目標値が現状維持になっているんですよ。これがいいのかわ私にはわからないんですけども、全国の学生数は今後減っていきますし、それに伴いまして福岡市の学生数も減っていく中、機能強化と言っているのに、現状維持でいいのかなという感想です。

以上です。

○事務局（藤本） 今の学生数のところにつきましては、ご指摘のとおり実際に今後若者が減っていくだろうという見通しの中で、現状維持という設定をさせていただいているところです。

女性のところについては、おっしゃるとおり修正をしたいと思います。

○星野部会長 この7-5と7-6の3つの数値を見ていると、いろいろ考えるところがあります。7-5の「企業における女性管理者比率」というのは非常にいい数字を探してきていただいたので、これはいいと思うんですけども、これが出てしまうと、この「若者率の全国平均との差」というのはあまり意味を持たないように思えます。つまり、女性を活用することによって管理職の比率が高まるというのは、努力した結果こうなることはよくわかるんですけども、若者の数が減っていくにもかかわらず、福岡では少し増えていくという数字は単に自然増ということになります。それと下には、委員からご指摘いただいたように、学生数は、教育機関を誘致することによって学生数を増やしていくという、これも努力の結果としての数字があると思うんですけども、この「若者の全国平均との差」というのは入れる必要があるんですかね。つまり、若者が減っていく中で福岡は増やしていきたいということが、この数字からあまり読み取れないようにも思うんですけども、いかがでしょうか。

○事務局（藤本） 若者率については、全国の大都市の中で一番若者率が高いということで、ずっと売りとして使ってきたんですが、最近かなり急激に減っております。ある意味ここについては、福岡の活力を担っていた若者が減っていて、しかも近年で言うと学生がそんなに大きく減っているわけではないので、多分、実際は若者の雇用ですとか、あと当然、少子化もあって、各県からあまり福岡に来なくなったりということがあると

思います。そのように減ってきているところですので、若者率が高い、若者が多いまちだということを全国平均との差で見ようとしていて、ここをしっかりと維持していくことは非常に大事だろうということです。

具体的に何か一つの大学の誘致のような形——誘致というところまではないんですけども、大学についての施策をやれば学生というように一つの施策でいくことにはならず、仕事を自分でつくれる若者を増やす、若者の雇用を増やす、企業を誘致するなど、いろいろなことの複合要因を検討するんですけども、大きな方向性として、福岡市の強みである若者が多いというところについては、維持するだけでなく、少し上向きで頑張るという意味を、このような形で示しているところです。

○星野部会長 わかりました。競争力の源泉になり得る若者の比率というのは、福岡にとって重要な意味を持っていて、この数字ぐらいでしかそれがあわせないということなんです。ありがとうございます。

○委員 それと、64ページの「現状と課題」のところの③、「個人の創造性や技術、才能に起源を持ち」は言葉を変えたとしたら何がいいんですか。「起源を持ち」というのは、ふだん使いますか。今まで読んでおりませんで、すみませんけれども。

○事務局（藤本） いわゆるクリエイティブ関連産業の定義において、個人から分離した特許のような技術ではなくて、個人の感性とか才能に由来するというか、それが源泉である知的財産ですね。技術的なものではなくて、デザインなどは個人に由来する、個人に起源を持つという意味です。文章として書いてあるものを読むことはあるので、いいかなと思って使っているところですが、あまりひっかかるようであれば修正します。

○委員 うん、ちょっと変えたほうがいいですね。

○星野部会長 起源を持つというよりは、競争の源泉という意味なんですかね。

○事務局（藤本） 由来するというか、その個人から切り離せない、個人の感性や才能とつながっているというかですね。

○星野部会長 その表現はこちらのほうで考えさせてください。

ほかに、目標7でいかがでしょう。委員、お願いいたします。

○委員 66ページ、7-5です。ここで若者の件はとやかく言うつもりはありませんが、「キャリア形成への意識改革や能力開発の支援など、女性の活躍促進に取り組みます」とあります。取り組まれて結構です。いくらでもやっていただきたいと思っているんですけども、能力開発の支援とか意識改革というのをわざわざやる必要があるのかなと私はいつも思っているんです。環境整備というのが非常に重要で、前々から議会の中でも言っているんですけど、例えば地域に今、男女共同参画協議会というのがございますけれども、それは実は昔、女性協議会と言っていたんですね。ところが、男女共同参画協議会といいながら、男性の参加者なんてほとんどいないんですよ。

ちょっと視点を変えると、例えば38ページに「全ての人の人権が尊重されるまちづくりと男女共同参画の推進」というのがあって、「男女の固定的な役割分担意識の解消度」という、何かあんまり理解したくない言葉があるんですけどね。「男は仕事、女は家庭を守るべき」という固定概念を持たない市民の割合——私はどっちかといったら持っているんですが、それを百歩譲って、女性が能力を発揮できる場をつくるというのは、女性の能力開発だとか意識改革ではないんじゃないですか。もう能力は持ってるし、意識も改革されていると思うので、その環境を市が整備してやるということでしょう。言っていることわかりますかね。

男女共同参画協議会とかがあったとして、それが女性ばかりで組織されている環境というのが女性の進出を阻害しているわけですよ。強制はしていないにしても、役所が「やってください。地域で男女共同参画協議会という名前だったら認めますよ」みたいなことが慣例上あって、それ自体が環境を整備していない証拠だと私は思っているんですよ。

だから、この言葉としては捉えられないかもしれませんが、能力開発の支援、意識改革というのは、もう既に女性が行っていると私は思っているんで、それよりも、女性が働きやすいだとか、管理職になっても男女の性別の差なく堂々と勤めていけるような環境を整えるという言葉に変えてほしいんです。これは私的な意見で申しわけないんですけども。

以上です。

○池内副部長 私もこのところについて申し上げます。今のご意見も大変すばらしいんですが、私もほんとうに働く環境整備が必要だと思っております。日本では今まで女性が仕事をしながら子育てをするという環境がなかった中で、環境整備の一方で、そういう環境だったので、女性が育ってこなかったというのも事実あるんですね。

そういった面では、企業の人事担当者とかお話をしたときに、「最初は女性は採用試験では大変すばらしいんだけど、だんだん会社の中での位置が低くなっていくんだ

よね」と言われるんです。それについては、一点は企業が育ててこなかったというのがあります。女性も子育てとともにやめないといけなかったり、またロールモデルがないということで、なかなかその意識が育たない。今でも管理職になりたいかというのと、なりたくない女性もたくさんいるような現状もあるので、今お話しになった働きやすい職場づくりというのも大変必要ですが、キャリア形成、意識改革というの、ここの中には入れていただきたいと思います。

○星野部会長 おそらく、委員の言われている「環境整備をしなければいけない」ということは、間違いなく誰もが納得することですし、一方で池内副部会長の言われた「女性の意識改革が必要だ」という具体的な方策の両方を入れていただくということでよろしいですね。ありがとうございます。

○委員 今のは変えるというわけではなくて入れていただきたいというのと、女性のキャリア形成への意識改革というのはいいとしても、それ以外に男性の意識改革というの半面必要だろうと自分は思います。それだけでいいです。

○星野部会長 よろしければ、最後の目標8に入りたいと思います。8はいかがでしょうか。

「めざす姿」の中で、68ページ「福岡と釜山広域市が日常的な生活経済圏」と、前回の「日常生活文化経済圏」という言葉を「日常的な生活経済圏」と変えていただいたんですけれども、まだ「日常生活文化圏」という言葉が少しぴんとこないところがあります。

例えば76ページに、空間構成の中で「日常生活圏」として、「日常生活圏とは、小学校区単位を基本とし」という記述がありますけれども、日常生活圏というのはこういうことではないかと思うんです。まさに自分たちが生活する周辺ということを見ると、釜山と福岡が日常的な生活経済圏と言われることにちょっと違和感があって、例えば、日常的な交流関係の深い生活経済圏をめざすとか形成するとか、もう少し表現を変えていただいたほうがいいのではないかと思います。まだ、これでもちょっと違和感があると感じます。

委員、お願いします。

○委員 全くそのとおりだと思います。

○事務局（藤本） ここはどう言ったらいいかというのは大分いろいろ内部でも議論して

いるところで、再度検討はさせていただきたいと思います。趣旨としては、いわゆる経済圏というよりは、日常生活にかかわるような経済圏として一つになっているということです。B to Bというよりはお互いのB to Cみたいな形での、生活を含めた形の経済圏になっているということは何と言ったらいいかということで内部でも議論していたので、もう少し表現を考えたいと思います。

○星野部会長 先ほど「日常的な交流関係の深い生活経済圏」という言い方をしましたけれども、もう少し表現をご検討いただければと思います。

ほかのところでは、いかがでしょうか。委員、お願いします。

○委員 71ページの施策8-5になります。グローバル人材のところなんですけれども、定義がわかりにくいという感想です。「また、福岡で学ぶ留学生の学習環境を整え、グローバル人材の誘致や、地元での就業などによる定着を図る」とあるんですけれども、ここでいうグローバル人材というのは、留学生のことではないかなと思うんです。世界的に活躍しているビジネスマンを誘致するのかなとも思えるんですけれども、これではわかりにくいです。

○事務局（藤本） ちょっとここは混乱しているところがございます、申しわけないです。グローバルに活躍している人材ということの中で、その卵である留学生というところがごっちゃになっております。グローバル人材の誘致については、グローバル人材の活躍の場づくりということですので、この留学生のところに入るのではなくて、少し別のところに移動させたいと思います。

○星野部会長 はい、お願いします。

○委員 この前からずっと議論としては挙がっておるんですけれども、新規の、陸海空のうちの空のところ、68ページの2の④に「新規航空航路の就航など」ということでは出ているんですけれども、71ページの「成長を牽引する物流・人流のゲートウエーづくり」ということで、福岡空港からの直行便の数の就航数とかね。ガルーダほか、いろいろ撤退しましたので昔のほうが多かったのかもしれないけれども、「博多港の国際海上コンテナ取扱個数」が出て、「外国航路の船舶乗降人員」が出て、「福岡空港の乗降客数」が出て、海外から、東南アジアから一筆で福岡に来て、天神に行けますよ、アイルランドに行けますよ、そしてその日のうちに帰れるという形での記載がほしいんです。思いませんけど、直行便がもう少し増えないかなということです。今まで就航していて

撤退しているところがまた戻ってくるようにしたい。10年後にはもう滑走路は増設ができていますかね。まだかね。

○事務局（光山） まだです。

○委員 今の予定でいけばあれはいつですかね。

○事務局（光山） まだ増設のスケジュールは見えていません。まずはエプロンの拡充をしっかりとやって、機能を強化していくというのが当面の流れになっています。なので、まだ増設の目標あたりは今の段階では明確にできないところです。

○甲斐委員 10年後には、まだできていないですかね。

○事務局（藤本） 空港関係の数値については、当然、担当と協議したんですが、滑走路がいっぱいになっている中で、ここの数を設定するのが非常に難しいということがあって、今回は指標の設定を見送っているところです。

○星野部会長 ほかに、目標8でご指摘いただく点はいかがでしょう。

委員、お願いします。

○委員 今の8-4の「福岡空港乗降客数」というのは、別途に海外の数字を挙げるのは難しいですかね。この乗降客数1,635万人というのは東京との……。上のほうは全部、海外ですよ。

○委員 この数は両方入っているんでしょう。

○事務局（藤本） 当然、数字自体はあると思いますので、あとはどういう形で指標を置くのがいいかということかとは思いますが、海外がいいというご指摘でしょうか。

○委員 目標8が、アジアのモデル都市ということなので。それに、上の2つとそろえたほうがよくないですか。私だけですかね、ちょっとよくわかりませんが。皆さん、どういう認識ですか。あるいは、「福岡空港乗降客数」の現状値のところに海外からの数字を入れるとか。

○事務局（藤本） 68ページの現状で空港の外国人入国者数を挙げさせていただいていますが、ご指摘の点は検討させていただくということで引き取らせていただけますか。

○星野部会長 わかりました。目標8は「国際競争力を有し」というタイトルのところなので、今、鍋山委員のご指摘いただいたように、もし、内訳がわかるのであれば、この中に入れていただくほうがいいかもしれませんね。

委員、お願いします。

○委員 この施策8-1、いろいろご検討いただいた結果がこの文言になっていると思うんですけども、ちょっと言葉が暴れているところが気になるというマイナーな話と、あとFDCでの都市再生の議論の中で指摘された、「空港だけではなくて博多駅を忘れないでくれ、博多港湾ターミナルも大事だ」という議論があったところを足していただきたいので、2段落目のところをちょっと直していただけないかと思っています。

具体的には、「天神・渡辺通、博多駅周辺、ウォーターフロントの3地区の都市機能を高めるとともに」は「3地区を核として」という言葉がダブっているので消していただいて、「空港・」——「博多駅」と固有名詞を書くのか、「新高速鉄道拠点」と書くのか悩ましいんですが、「空港・港との接続の強化と、」、あとそのままです、「回遊性の向上を図り、3地区の連携を高めることにより、一体となって都心の機能の強化を進めます」とする。要は博多駅、港湾というのを書いてほしいということと、2段落目の冒頭の文章が暴れているので訂正いただきたいということです。

○星野部会長 ありがとうございます。修正案まで出していただいて非常に助かります。

○委員 市さんとの日常的な議論の結果なので、ちょっと気になりました。

あと、これはコメントなのでリクエストではありません。全体の中のどこかにあった気がするんですが私が見失っているので、確認をしたい。コメントなので、どうなっているのか後で考えておいてくださいという意見なんですけれども、物流機能、港湾物流について、たしかコンテナターミナルの記述もあったので、集約していく方向でいろいろ議論がされているのかなと思っていたのですけれども、その際に、空間構成の中で位置づけるかここで言うかは別として、都心部の港と物流拠点の港の違いを整理していくという話がどこかに入っていたらそれでいいんですが、もし失念していたらご検討ください。

○星野部会長 特に入っていないですね。

○事務局（光山） 人流の機能と物流の機能をどう整理していくかという話ですかね。例えばクルーズ船とコンテナ船という意味ですか。

○委員 はい。

○事務局（光山） その記述は今のところはないと思います。

○星野部会長 今、委員がそういう質問をされる理由というのは、例えばベイサイドのフェリー、離島航路のところと、国際旅客ターミナルのところを一元化して、そしてコンテナターミナルと切り離すという意味ですか。

○委員 いえ、そこまで具体的に総合計画で話すことは考えていなかったんですが、課題がいろいろあるのは認識してまして、物流機能も人流機能も強化するということに、今、正直混在している状態で、それに課題があるとはおそらく多くの人が感じていらっしゃるって、解決策をいろいろ検討しなければいけない状態だと思っています。ただ、それを課題として認識しておくというレベルまでは書けないのか。もごもご言っていて恐縮です。今、星野部会長先がおっしゃったやり方が、確定的に私の中にあるわけでもないんですけども。

○星野部会長 例えば博多港の長期構想の中に、そういった旅客と貨物の切り分けという考え方があってもいいですし、なかなかそれはこの中に入れづらいですね。委員は今、問題があることをこの中に押さえておくということですけども、今、それが混在していることの問題というのが出てきているんですか。

○委員 設備自体が整備されていないというのが問題であって、混在ということはそう大きな問題ではないです。

○星野部会長 おそらくクルーズ船の受入施設の問題だとかはあると思うんですけども、今、例えば香椎パークとアイランドシティのコンテナターミナルの再配置ということが特に問題提起されているわけでもないですし、あまりこの中で入れる必要はないのかなと思います。

○委員 入れるとしたら、「現状と課題」の④のところに文言として、もう少し整備を進



めるべきということで入れて、その詳細なものは港の長期構想などでもう少し具体的に出てくるんだろうと思います。

○星野部会長 わかりました。確かにクルーズ船あるいはパッセンジャーターミナルの問題というのは実際にあるわけですし、この整備を図るということをもう少し8-4で触れるということによろしいでしょうか。

藤本課長、それによろしいですか。

○事務局（藤本） いわゆる機能強化という言い方を、可能な範囲で充実するような形で考えたいと思います。

○委員 玄関口にふさわしいという感じですね。釜山もシンガポールも整備されましたし、クルーズ船云々と大きくうたったりしている中で、ウエルカムにふさわしい旅客ターミナルを整備するということは、絶対要ると思います。まあ、粉屋さんが今入ってきたから、あそこを完璧に整備するのは難しいでしょうけどね。ほんとうは箱崎とアイランドに分けるのが一番いいんです。そうするとマイアミになってくるんですよ。

○委員 須崎の問題がこの中に一つも入ってないですが、10年スパンでできるようなことではないでしょうね。須崎の人が天神から上っていくという港の機能、アイランドを含めて、あそこをもうちょっと強化するというのが、ほんとうは福岡市の一番大きな問題だと思うんだけど、この長期計画の10年のレンジの中でできるかというとなかなか難しいですかね。方向性としては入れてもいいと思うんですけどね。

○星野部会長 それは検討させてください。

ほかに目標8でご指摘いただく点、いかがでしょうか。委員、お願いします。

○委員 2点ありまして、1つ目は質問なんですけど、71ページの指標項目の一番下から2番目、「外国語で簡単な日常会話ができると思う生徒の割合」の「生徒」というのは誰を指すんですか。

○事務局（安川） 中学3年生になります。

○星野部会長 今のご質問を聞くまで、私は中学・高校生かと思っていたんですけども、中学3年生とまで特定できるのであれば、これは注をつけていただく必要がありますね。

○委員 もう一点お願いします。72ページの施策8-6、施策の方向性のところで「アジアにおける都市問題解決に寄与すること」とあるんですが、69ページの「現状と課題」の⑥のところで、具体的に「都市デザイン、環境、上下水道、交通、福祉などの分野で」と、都市問題に寄与することができる福岡市の利点みたいなものを挙げられているので、ここまで具体的に出ているんだったら、ここに入れてもいいのではないかという気が個人的にしました。それについて何か意見をいただければと思います。

○事務局（藤本） 分野を個別に書いていますのは、現状ということで今実際に考えられるようなことについて掲げています。施策の方向性については、ここに少し例示として挙げてもいいかとは思いますが、あまり限定してもというところで、ここには書いていませんが、例示として少し入れてもいいかなと思います。

○星野部会長 お願いします。

○委員 先ほどの港湾の話の関連です。蒸し返すつもりはないのですが、70ページの施策8-1の2つ目の文章で「ウォーターフロント」とあります。8-2もそうですが、ほかは具体的な地名が挙がっているのにここだけ「ウォーターフロント」になっているのはわかりにくいのかなと、先ほどのやりとりを聞いていて思いました。もし向こう10年間でできる範囲が、例えば中央埠頭、博多埠頭ということであれば、名称を入れたほうがはっきりするのではないかという気がしましたが、どうでしょう。

○事務局（光山） 確かに、ここでの「ウォーターフロント」は当然都心部のウォーターフロントのことでございまして、都市再生緊急整備のエリアのイメージをしておりますので、そこを具体的に書くよう検討する方向で引き取らせてください。

○星野部会長 今、委員からご指摘をいただいた69ページの⑥の問題ですけれども、「アジアの諸都市が経済発展の一方でさまざまな都市問題を抱えている中、福岡市はこういう分野で寄与できる」というふうにここに書かれています。先ほどの「アジアのリーダー都市」という、10ページ目に関するディスカッションが無事過ぎた中でもう一度戻るといのは、私自身、運営上やりづらいんですけれども、せっかくこの「アジアのリーダー都市」のところでいろいろ議論があった結果、こういう形であれば「アジアのリーダー都市」として示せるのではないかという今この10ページのようになったと思うんです。具体的に69ページに書かれているように、アジアでこのような社会的な問題がある

中で、福岡だったら既にこのようなことを経験して、こんな部分で貢献できる、だからアジアのモデルとして貢献できるということを、10ページ目のこの基本姿勢に入れたほうが、この「アジアのリーダー都市」に説得力が出てきませんか。それは事務局では当然考えられたことだと思うんですけども、いかがでしょうか。

○事務局（藤本） ここは基本姿勢ですので、あまり具体的な例示というよりは、ある程度くくったような表現にしています。とりあえずここについては大きくくくって、「成長と質の高い暮らしのバランスがとれた」ということで書いているところで、9ページの「アジアにおける役割」でも「アジアの諸都市」というところであるんですが、単純に基本的なところということで、分野まであまり具体的なことを入れて長くならないようにしています。入れるなら、こちらの10ページに入れるのか、9ページに、こういう分野でというところは書かずに、「アジアの諸都市のモデル」ということで書いているので、どちらかに少し分野を入れるというのはありかなとは思いますが。

○星野部会長 前回、福岡市がめざすのはサーバントリーダーシップという形態ではないかということをお話ししましたが、アジアを牽引する福岡ではなくて、アジアに貢献する福岡であって、具体的にこういった内容が69ページに記述されているのであれば、常に「アジアのリーダー都市」を掲げるときにはこういう表現というのを中に入れていくほうがいいように思います。これは非常に大きい問題だと認識しておりますので、これももう一度10ページ目に戻って、基本姿勢、あるいはその前に入れていただくようご検討いただけますか。

○事務局（藤本） はい。

○星野部会長 ほかに目標8、いかがでしょうか。

○委員 70ページの8-2のところ、現状1万3,000人強、目標が3万人ということで、アイランドシティなど3つの地域を足しているんですが、目標の数字がかなり大きいと思います。

もう一つ、8-3の指標です。国際競争力指数という非常に有名な指標がありまして、この指標では、分子はグロス（輸出プラス輸入）ではなくてネット（輸出マイナス輸入）でみます。分母は貿易額（輸出プラス輸入）です。ご認識があれば、それで結構です。確認まで。

最後に、変えていただきたいのは、69ページは空港と港で輸出と輸入の色です。統一

してください。

○事務局（藤本） この上下はそろえます。

○星野部会長 藤本課長、確認をお願いします。

○事務局（藤本） あと、輸出と輸入を単純に引くということを考えなかったというところは、貿易の際に、輸入は都市圏で消費するものが輸入されるけれども、輸出はもう少し広い範囲のものを港から輸出するということなので、そこを差し引きはしないのかなということですよ。

○星野部会長 予定の時間まであと10分に迫りました。

○事務局（藤本） すみません、ご指摘があった8-2のところは合計しているんですけども、これは個別に数字自体はありますので……。

資料3の裏というか、最後のページの8-2のところは個別の現状値と目標値をつけております。実際、SRP（ソフトリサーチパーク）は少し増え幅がそれぞれの地域によって違ってきます。

○事務局（安川） おっしゃるとおり地区ごとに目標値を設けておまして、SRPのほうで言いますと、過去のピーク時の目標値に戻すという形で7,000人と置いていて、アイランドシティの場合は開発の計画といった形で、地区ごとに目標値を置いたものを足しております。

○委員 3つの地域で、目標に差があるということですね。

○委員 もう一点いいですか。68ページの④で、今、委員から出た件なんですけれども、この文面を読む限り、福岡は非常に設備もいい、人も集まるが、もう少し強化が必要であるということだけなんですけれども、委員から、もう少し問題点を入れたほうがどうかということがありました。そこで、「活発化することが見込まれます。そのため、国内外の人流・物流の増加に対応するとともに、世界との競争に負けない」とか、そういう文言を一つ入れたらどうですか。福岡は十分ではないんですよ、もう少しやらないといけないという文言をちょこっと入れたほうがいいのかもしいですね。

○事務局（藤本） わかりました。

○星野部会長 よろしいですか。それでは、最後のパートに入りたいと思います。空間構成目標と、最後の区ごとの目標については、今日はほとんど修正がありませんでした。もし新たにご指摘いただく点がありましたら、今日お出しいただくこととなります。最後のパート、73ページから一番最後までの間で何かご指摘があればいただけますでしょうか。

お願いいたします。

○委員 最後の区の、82ページ目ですが、このページが寂しい気がするんです。図のタイトルがないのですが……。これは基本計画体系イメージの図になるのでしょうか。

○事務局（藤本） はい。

○委員 そうすると、この図にある「施策」というのは、前のページの目標1から8に対応している施策を指しているのでしょうか。

○事務局（藤本） そうです。これはもともとの全体の、11ページでそれぞれの目標と施策の関係を挙げているんですが、それがわかるようにここに再度挙げたほうがというご意見が審議会の中で出ましたので、こちらにも再度挙げているところです。

○委員 その後ろに（1）めざす姿とありますが、ページ全体を読んでも、この項目の位置づけがわからないんです。区のまちづくりの目標というのが、上に一番大きく「3 区のまちづくりの目標」とあり、（1）がめざす姿で、（2）が各区の概要で、めざす姿というのが箇条書きになっているだけで、この文章がどういう位置づけで、どういう意味をなしているのかを説明していただいたほうがよろしいかと思います。

○事務局（藤本） それぞれ分野別の目標と空間構成の目標と区のまちづくりの目標というふうに、目標のパートを大きく3つに分けています。それぞれの目標のパートごとに、10年後にこういうふうになっていますというめざす姿を、例えば……。

○委員 これは各区が共通してめざす姿ということですか。

○事務局（藤本） そうです。目標8であれば、最初にめざす姿と書いてありますが、全

体をくくって、各区を含めたところでめざす姿です。「区ごとの目標が実現しています」と書いていますので、この下に区ごとの目標がぶら下がっているような構成にしています。

○委員 あと、これを実現させていく場合、市役所と区役所の二重構造になっていますよね。市役所という全体があり、それから区役所がある。その区役所の役割というのは、この中には位置づけなくてもよろしいのですか。あるいは、どこかに位置づけられているのですか。要するに、これをどうやって推進していくのかというときに、区の自治を進めていくような政策をとられるわけですよね。

○事務局（藤本） 基本計画の推進に当たって、いわゆる行政の内部のあり方ということで、15ページに「柔軟な組織運営と区役所の役割」ということで、ここに区役所の役割を置いておきまして、住民生活に密着したサービス、それから地域の個性を生かしたまちづくりの拠点、そして住民ニーズを吸い上げて、ほかの局が行う施策に反映する、情報を発信する、そういった拠点と位置づけて、そのための体制を強化していくことになっています。区はそういった形で地域の魅力を生かしたまちづくりをする、それ以外には実際の地域のニーズとかを吸い上げ、それぞれの局が実施するところに反映させていくというのが区役所の役割です。この図にあるように、施策自体は同じ分野別目標の施策もありますので、当然、各局の施策でそれぞれの区がこういう状態になるようにやっていくというたてつけになっています。

○委員 そうすると、この15ページ目に書いてある区役所の役割と、後半の85ページ以降にある各区の目標との関係性はどうなりますか。

○事務局（藤本） この各区の目標というのは区役所だけがめざす目標ではなくて、福岡市役所全体で、この区はこういうふうにするというめざす姿を示しています。区役所は、その地域の魅力を生かしてまちづくりをするという部分、それから実際の地域のニーズを各局の事業のほうに伝えていく役割を担うということで、この目標は区役所の目標ではなくて、区全体をこういう区にしていきますという、市役所全体というか、市民の方も含めての目標という位置づけです。

○委員 今の説明を聞いて何となくわかりました。

もう一つは、これは最終的な印刷のときで結構ですが、各区が4ページ構成になっています。それぞれの最後のページの左側に区の概要があり、隣の右側は別の区の表紙に

なっているので、同じ4ページでも、見開きで4ページ使われたほうがわかりやすい気がしました。ページ構成の工夫をしていただき、区の概要がきちんとわかった上で目標を読めるような構成にならないかということ、意見として申し上げておきます。すぐには難しいかと思いますが、印刷のときに工夫していただければよいかと思います。

○事務局（藤本） ほんとうは見開きで地図まで含めて見えるようにしたいなと思ったんですけども、「現状と課題」と「取り組みの方向性」も見開きで見たいなということがあって、今こんなふうになっています。そこは印刷のときに何らかの工夫をしたいなと思います。

○委員 以上です。

○星野部会長 空間目標と区ごとの目標、よろしいでしょうか。委員。

○委員 つぶやきだと思ってください。カワイイ区は入らないんですね。（笑）

○星野部会長 2022年に向けて、カワイイ区を入れるべきかどうか。

○委員 入れるべきとは申しませんが、ないんですねという確認です。

○事務局（藤本） 何らかの広報ツールをネットにつくるようなことはあってもいいかなということは思っております。

○星野部会長 よろしいでしょうか。

〔「なし」の声あり〕

○星野部会長 それでは、これが第6回目の都市の成長部会になります。

きのう、6月にこのドラフトをいただいたときの総合計画を見てみたんですけども、最初ご意見を出していただいたように、「この計画の内容は福岡市でなければならないのかな、どこでもこれは当てはまるのではないかな」という内容だったんですけども、今こうやって見てみると、私たちの担当した目標5～8もそうですし、全体もそうですし、福岡がこういうふうになってほしいというものが、この6回の協議を重ねて一通りまとめられたように思います。

本来、前回までにご意見を出していただいて、今日は確認のつもりだったんですけども、時間ぎりぎりまでご意見をいただきましたので、おそらく事務局のほうでは大変

な思いをされるでしょうし、私たちもこれを一緒に修正します。総合調整委員会というのが11月16日に予定されていて、ここで両方の部会と会長・副会長が集まって、今日ご提案いただいたものを最終的に確認して、最後の総会にかけることとなります。皆様のご協力でここまで来たことに感謝いたします。

それでは、こちらの都市の成長部会はこれで一通り終わったということでよろしいでしょうか。

[拍手]

○事務局（藤本） ありがとうございます。

最後に、事務局より連絡をさせていただきます。次回は11月19日月曜日です。時間が12時半から14時半になっております。申しわけありませんが、昼食時間と少し重なってしまっているのですが、早目にご昼食をとられた上でお集まりいただければと思います。場所はエルガーラの7階のエルガーラホールですので、よろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

○星野部会長 それでは、どうもありがとうございました。以上で終わります。

閉 会